

(1) 2015年3月期 第2四半期実績について

■連結損益計算書（要約）

2015年3月期第2四半期における連結売上高は、前年同期比**5%減**となる**1,542億円**、営業利益は**72%減**の**34億円**、経常利益は**77%減**の**33億円**となりました。四半期純利益は**20億円の損失**となりました。

また、遊技機事業において**パチスロの型式試験運用方法が変更された事**に伴い、販売スケジュールを見直したため、2014年10月31日付で**通期の業績予想を下方修正**しております。

■各種費用等の実績

・研究開発費・コンテンツ制作費

デジタル分野を強化しているコンシューマ事業を中心に前年同期を上回りましたが、期初計画値は下回って推移いたしました。

・設備投資額

釜山における土地の取得を行った前年同期と比較して減少しております。一方で、セグメント別では遊技機事業における金型増加やアミューズメント機器事業において、幅広いユーザーに向けた多様な製品の投入を行う際の展開手法として、一部資産を自社で保有する形式をとっているため、前年同期比で増加しております。

・減価償却費

期初計画に沿って推移しております。

・広告宣伝費

デジタルゲーム分野や、今期より連結対象となったアトラスタイトルの増加等により主にコンシューマ事業において前年同期比で増加いたしました。一方で、一部のパッケージタイトルの販売が後ろ倒しとなった影響により、期初計画は下回っております。

■連結貸借対照表（要約）

前期末と比較して、流動資産は、現金預金や売上債権の減少の一方、有価証券の増加（短期資金運用）により、**61億円増加**いたしました。固定資産は、投資有価証券が減少（保有株式時価の下落等）した一方で、有形固定資産の増加により**22億円増加**いたしました。

また、仕入債務の減少や未払法人税等の減少等により、流動負債は**93億円減少**いたしました。

純資産については、**47億円減少**し、**3,435億円**となりました。

その結果、2014年9月末における総資産は、**5,512億円**となり、前期末に比べ**83億円増加**いたしました。

自己資本比率は、**61.5%**となり、引き続き、健全な水準を堅持しております。

■遊技機事業

売上高は前年同期比で**15%減**の**606億円**、営業利益は**52%減**の**73億円**となりました。

パチスロにおいては、『パチスロバーチャファイター』を販売したものの一部製品の販売スケジュールを下期へ見直した結果、前年同期比で販売台数は約**5万台減**の**9.2万台**となりました。

また、パチンコにおいては、『**デジハネCR北斗の拳5慈母**』をはじめ、複数タイトルの販売が好調に推移したことから、前年同期比で**3.1万台増**の**8.6万台**となりました。

■アミューズメント機器事業

売上高は前年同期と同水準の**180億円**、営業利益は**1億円**（前年同期は、**1億円未満の営業損失**）となりました。

アミューズメント機器事業においては、『**StarHorse3 Season III CHASE THE WIND**』におけるCVTキット等の販売、『**戦国大戦**』におけるCVTキットやカード等の消耗品の販売、『**ボーダーブレイク**』シリーズ、『**セガネットワーク対戦麻雀 MJ5 EVOLUTION**』などのレベニューシェアタイトルによる配分収益を計上いたしました。

■アミューズメント施設事業

売上高は前年同期比で**5%減**の**208億円**、営業損失は、**2億円**（前年同期は**営業利益2億円**）となりました。

アミューズメント施設事業においては、前期に引き続き既存店舗の運営力強化を行いました。消費税率引き上げの影響で、国内既存店舗の売上高が減少いたしました。

国内施設においては、**3店舗**の出店、**3店舗**の閉店を行った結果、店舗数は、**198店舗**となりました。

■コンシューマ事業

売上高は前年同期比で**10%増**の**482億円**、営業利益は**18%減**の**9億円**となりました。

パッケージゲーム分野においては、『**ペルソナ4 ジ・アルティマックス ウルトラスープレックスホールド**』などの新作タイトルの販売を行いました。

デジタル分野においては、『**ファンタースターオンライン2**』や、『**ぷよぷよ!!クエスト**』、『**チェインクロニクル ～絆の新大陸～**』が堅調に推移いたしました。また携帯電話・PC向けパチンコ・パチスロゲームサイトにおいては、スマートフォン対応版『**777TOWN for Android**』、『**777TOWN for iOS**』並びにDeNA向け『**モバ7**』の取り組みを強化いたしました。

玩具販売事業においては、『**アンパンマンシリーズ**』及び『**ジュエルパッド**』などを中心に販売を実施いたしました。

アニメーション映像事業においては、劇場版『**名探偵コナン 異次元の狙撃手**』の配給収入やTVシリーズ『**弱虫ペダル**』のライセンス収入、物販収入などが好調に推移いたしました。

■カジノ関連事業(複合型リゾート施設・大型複合施設)に関する主な取り組み

韓国・仁川におけるカジノを含む複合型リゾート施設では、当該事業のパートナーである、パラダイスグループが運営していたパラダイスカジノ・仁川を、2013年7月1日付でパラダイスセガサミー社が取得し、ノウハウの蓄積を図っております。また、仁川空港隣接地へ複合型リゾート施設の開発を2014年11月より着工し、2017年に開業を予定しております。

韓国釜山市における大型複合施設については、ホテル、エンタテインメント、商業施設等からなる大型複合施設の開発・運営に今後取り組んで参ります。

(2) 2015年3月期 通期見通しについて

■連結損益計算書（要約）

2015年3月期通期における連結売上高は、前期比**2%減**となる**3,700億円**、営業利益は、**53%減**の**180億円**、経常利益は、**58%減**の**170億円**、当期純利益は、**73%減**となる**127億円**に期初計画から下方修正いたしました。

配当につきましては、中間配当**20円**、期末配当**20円**、年間で**40円**を予定しております。

■遊技機事業

2015年3月期通期においては、売上高は前期比**13%減**の**1,585億円**、営業利益は**45%減**の**250億円**に期初計画から下方修正しております。

パチスロの型式試験運用方法が変更されたことに伴い、各タイトルの仕様等を再検証した結果、パチスロ遊技機の当期における年間販売台数を**37.4万台**から**22.2万台**に修正いたしました。一方で、パチンコ遊技機においては、当第3四半期に販売を開始した『**ぱちんこCR北斗の拳6拳王**』が好調に推移していることなどから、年間販売台数を**25.0万台**から**26.7万台**へと修正しております。

■アミューズメント機器事業

2015年3月期においては、売上高は前期比**4%増**の**400億円**、営業損失**23億円**に期初計画から下方修正しております。前期に販売したレベニューシェアタイトルの稼働が低調に推移している事から、配分収入が計画を下回る見込みです。その他新作タイトルの販売も苦戦する事が予想され、通期の見通しは、期初計画を下回る見込みとなっております。

■アミューズメント施設事業

2015年3月期においては、売上高は前期比**5%減**の**410億円**、営業損失**8億円**に期初計画から下方修正いたしました。投資の絞り込みや店舗運営の効率化により収益性の改善に努めてまいりますが、消費税増税の影響などにより、引き続き損失計上を見込んでおります。

なお、今期末の店舗数は、**198店舗**となる見込みです。

■コンシューマ事業

2015年3月期においては、売上高は前期比**17%増**の**1,165億円**、営業利益は**150%増**の**50億円**に期初計画から下方修正いたしました。

主に、**パッケージゲーム分野及び玩具事業**が低調に推移しており、利益面では両分野で期初計画を下回る見込みです。なお、**デジタルゲーム分野**においては、主に欧米を中心に売上高は期初計画を下回る見通しですが、国内での展開は引き続き堅調に推移していることから、利益面は期初計画を上回る見通しです。しかしながら、**パッケージゲーム分野及び玩具事業**における**利益減少を補うには至らない見通し**となっております。

(3) 今後の取り組みについて

■グループ構造改革に向けた3つの取り組みについて

- ① 当社グループの事業を、**3つの事業グループへと再編・集約**。
- ② 収益性改善の目標として、**年間60億円の固定費削減**。
- ③ セガの**構造改革担当役員を選任**。

1点目は、現状、多岐にわたっている当社グループの事業を、サミー(株)を中心とした**遊技機事業**、(株)セガを中心とした**エンタテインメント・コンテンツ事業**、国内 IR への参入を目指すうえで欠かせない、**リゾート事業の3事業グループへと再編致します**。**3事業グループへの再編・集約**により、意思決定の迅速化や、重複する機能の効率化を進め、経営資源を適切に投入できる体制にいたします。このような取り組みを通じて、事業環境に適応し、経営効率を高める事により、更なる成長を目指してまいります。

2点目は、**収益性の改善**に着手致します。再編によって成長分野へ集中し、更なる成長を目指す一方で、持続的に利益を創出し、最大の成長機会である国内 IR への投資に備えるためには、抜本的な施策が不可欠であると判断いたしました。そのための具体的な施策については、今後検討を重ねてまいります。2016年3月期より、**グループ全体で固定費用を60億円削減する事**を目指してまいります。全ての事業領域を対象として、不採算事業・業績低迷事業を中心に、人件費を含めたあらゆるコストを対象に検討を進め、効率化を図ります。

3点目は、(株)セガにおいて**構造改革担当役員を選任致します**。セガグループにおける構造改革を抜本的かつ迅速に進めるため、(株)セガの取締役である里見治紀が**2014年11月1日付で(株)セガの代表取締役副社長**に就任いたしました。
以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって、大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。